第 2018-08 号

恵みと真理のニュース

2018 年 2 月の四次　恵みと真理教会
韓国 京畿道 安養市 萬安区 安養路 193 / ☎82-31-443-3731 / www.gntc.net

［証］

わたしは、神に近くあることを幸いとし／主なる神に避けどころを置く。わたしは御業をことごとく語り伝えよう

私は儒教の伝統と慣習を大事に行う家庭で生まれ育てられました。
父は厳しい性格で自己中心的な性向がある反面は母は家事に献身的で子供たちに対する愛が溢れていました。子供の頃は姉と共に2㎞が超えるほど家から離れた教会を通いました。教会で聖徒達が私たちを明るく歓迎してくれることと教会の温かい雰囲気と礼拝党で鳴り響く讃美歌がとても好きでした。
教会から家まで帰る道が暗くて怖かったですが、共に手を掴んで“泰山を超えて険しい谷に行っても光の中で歩んで行くと主がいつも守り、約束した御言葉は変わらない。天国に栄光、天国に栄光、私の心に満ち溢れ、ハレルヤを力強く歌って、永遠に主を賛美する”と声高く賛美すると怖くなかったです。しかし、私たちが教会に通うのを後で知った父は二度と教会に行かないように厳しく叱ってもうこれ以上教会に通うことができませんでした。歳月がたって２５歳なった時、結婚しました。葛藤が日々酷くなり、生きるのが楽しくなくて苦痛でした。それで憂鬱な時間を過ごしたある日、隣の家で住む執事が私を伝道しました。久しぶりに教会に来て礼拝に参席し説教に慰められ、賛美を歌って執事たちと交わりながら過ごす時間が楽しくて幸せでした。しかし、旦那の反対で二人で言い争いが多くなり、教会に行けない日が多くなりました。
家族がともに教会に来て礼拝をささげる家庭がうらやましかったです。また、一方親と旦那の迫害でも相変わらず教会に行って熱心に礼拝をささげる女性の執事達の信仰がうらやましかったです。したがって、私は“神様！私はいつ固い信仰を持ってあの方のように揺れなく神様を信じる生活をすることができますか。どうすれば私たちの家庭福音化になり家族が共に神様に礼拝をささげることができますか。と祈りました。
しかし、祈りだけ終わって、決心と実行しなくて結局には数年間、むなしく時間を使い神様から離れました。その代わり、スポーツに趣味を持って同じ趣味を持った人々と共に交わって共に活動する楽しむに落ちいて生きました
そうするうちにある日、恵と心理教会の区域長である隣の家に住む年下の人が“いつまでそのように神様と離れて生きるのか。と一緒に教会に行こう”と勧めて私の手を掴んで教会に導きました。家と近いスワン聖殿の礼拝に参席して“これからはどんな場合も神様の所を離れなくて、相変わらず神様を畏れ愛する生活をすると新しい心で決心しました。大企業を辞めた後、事業を始めた後から様々な苦難を経験した旦那もそのごろから教会に来て主を救い主として受け入れました。すべての家族が救いを得て共に教会に通い、神様に礼拝をする喜びを享受するようになりました。そのように楽しく信仰生活をするうちにヨンイン聖殿が建てられ私たちの家族が属した区域がヨンイン聖殿の区域で編成されました。主日礼拝だけささげていた私は新しい聖殿で新たな心で御言葉に恵を愛し、礼拝の時間を待ち望むほど変化にされて信仰が成長しました。聖歌隊で喜んで感謝する心で奉仕をしました。
金曜礼拝に参席して神様に悔い改める祈りをささげる中で聖霊洗礼を受けていげんのたまものを受けました。頭から足先まで全身が熱くなり、心にはどのように表現できない感動と喜びが充満になりました。そして目から真の悔い改めの涙と限りない感謝の涙が流れました。私の罪を赦した神様、主なる天のお父様に愛と恵に感謝をささげ、神様の中心、伝道中心の生活をすると決心しました。
私が神様に受けた恵と愛を証して生きておられる神様の証拠しイエス様を信じない友達と親戚達を伝道するのが非常に楽しくてやりがいがありました。伝道するとき、大変で怖れることなく彼らが福音を受け入れ主を信じ仕える生活をするようになるのを期待して胸がときめかしました。
神様はそんな私に区域長の職分をくださってもっと楽しくて感謝する心で主を仕えるようにし旦那にも執事の職分をくださいました。そして、子供と共にすべての家族が聖歌隊で奉仕する幸せも享受するようにしてくださいました。実家の家族の救いのため頑張って祈っている時でした。特に世の風波で苦しんでいて巫俗信仰に深く落ちて姉を見て気の毒に思って神様に祈りました。すると、私の祈りを聞いてくださった神様が助けてくださり姉を教会に導くことができました。姉を教会に連れてきた日、驚いたことは党会長の牧師の説教御言葉の中で姉の今の状況にあう説教をしてくださって説教が終わった後、歌った賛美が姉が妹と弟をつけれて教会に行き来ながら歌った“泰山を超えて険しい谷に行っても”という賛美を選曲されて驚きました。姉は遠い所で住んでいましたが、その日に神様の恵みを体験して、決信した後、もっと礼拝に参席したがって一か月間、私の家に泊まりました。その後、姉は突然敗血症で天国に行きました。姉の葬式をするときに教会で多くの方が来られて恵あふれるように葬式礼拝をささげて私の兄弟と親戚に慰めと感動を受けるようになって自然に福音伝道時間になりました。
旦那がした事業が日増しに繁盛しましたが、大きい問題に直面するようになりました。法が変えて今まで随意契約をしたのがすべて入札競争をするように規定が変更されました。関連したすべての会社が苦しんでましたが、特に旦那の会社が酷かったです。旦那の会社は旦那の性品と誠実さでいつも難しくなく契約をすることができたからです。旦那の会社が大変になって私も何か仕事を探す考えをしました。
今の状況を教区伝道しに話して祈りを頼みましたら、“空の鳥をよく見なさい。種も蒔かず、刈り入れもせず、倉に納めもしない。だが、あなたがたの天の父は鳥を養ってくださる。あなたがたは、鳥よりも価値あるものではないか。”（マタイに福音書６：２６）という御言葉で慰めてくださり、どんな場合でも主のことをおろそかにしないように共に神様に祈るとしました。考えを変えて、もっと忠誠な主の働き者になるのを決心して神様に助けを求めました。すると、神様は私たちに事業に必要な知恵と能力を与えてくださってむしろ、事業の分野を広くさせてくださいました。大教区長の牧師も家に来られ祝福の話をして祈ってくださいました。神様が新しい事業でも挑戦する勇気をくださって有能な職員に出会うようにしてくださいました。そうして、すべての苦難をよく克服して経済的にも回復しました。
今年２０１８年も事業をはじめながら最も競争が激しかったこの前、入札説明会の時、教区で伝道士、勧士、区域長達がともに祈ってくださって、神様が助けてくださって旦那の会社に落札されました。このように神様が苦難が有益になるように導いてくださいました。また、もっと責任と熱心をもって教会を仕え伝道に力を注ぎました。旦那に教会の施設管理部長の重い責任を与え、私に首区域長と伝道室長の重責を任せました。私たちの夫婦は時によって助ける恵みをくださってこのように教会を仕え神様に栄光のため献身する福なる人生を生きるようにしてくださった神様に感謝します。今年は娘の夫婦の信仰も固くなり主のことに深く参与して献身するようになり、神様から孕みの福を受けるように願い祈ります。
“告白をいけにえとしてささげる人は／わたしを栄光に輝かすであろう。道を正す人に／わたしは神の救いを示そう。”（詩編５０：２３）“わたしは、神に近くあることを幸いとし／主なる神に避けどころを置く。わたしは御業をことごとく語り伝えよう。（詩編７３：２８）ハレルヤ！

［信仰コラム］

キリスト十字架の敵対

″わたしがそう言うのは、キリストの十字架に敵対して歩いている者が多いからである。わたしは、彼らのことをしばしばあなたがたに話したが、今また涙を流して語る。...″（ピリピ人への手紙3:18~21）

誰かのために涙を流しながら話すということは甚だしく焦がして、念入り話すことを意味します。使徒パウロは彼が焦がす心で涙を流しながら重ねて話す理由を明らかにしました。様々な人々がキリスト十字架の敵対で行うからだとしました。キリスト十字架の敵対で行う人が誰なのかということと彼らの生活の特徴と結末に関して調べてみます。ここで話す’キリスト十字架’とはキリストが罪人の罪を代わりに担当して十字架に釘つけられて死なれたことを言います。
第一は、律法主義者達がキリスト十字架の敵対で行う人々です。
律法主義とは正しくなるためには律法を守らなければならないという教えです。言い換えれば、自分の正しい行為で救いを得ようとするのを意味します。本文が記録されたピリピ人への手紙3章2節に律法主義者達を指して’犬ども’、’悪い働き人たちを’、’割礼の傷をつけている人たち’だという過激な表現が使われました。そしてこのような者達を’警戒しなさい’という言葉を3回も繰り返して厳重に警戒命令しました。今日もパウロ当時のように律法主義者達の教訓が絶え間なく教会に浸透しています。律法を守ることで救いを得ると教える人々、人間の努力と行為で救いを得ると教える人々はキリスト十字架の敵対で行う者です。
第二は、私達が罪を犯さなかったと話す人々はキリスト十字架の敵対で行う人々です。
聖書は聖霊に感じられた人々が神様から受けて話したのです。このような聖書に″すなわち、すべての人は罪を犯したため、神の栄光を受けられなくなっており、彼らは、価なしに、神の恵みにより、キリスト.イエスによるあがないによって義とされるのである。″と記録されています。なのにも″人間は罪人ではない″、″私は罪を犯さなかった″、″私は宗教的な行為と善の行為で義人になった″と主張するなら神様を嘘をつくと規定する相当な罪を犯すのです。それだけではなく、イエスキリストが罪人を救おうと十字架を負った代贖の恵みを辱しめる行為です。とこしえの命は神様の独り子イエスキリストの中にいることであり、イエスキリストを迎接した者以外にはとこしえの命がないと神様が言われました。従って、とこしえの命とイエスキリストを信じるのは分離することができません。なのにも十字架に釘つけられたイエスキリスト以外にも’匿名のキリスト’がいる主張する者達がいます。全ての宗教に救いがあると主張する者達がいます。彼らの行為は神様が独り子をこの世にお送りなさい十字架に釘つけて死なれるようにしたのを公然なことをしたことにみなします。このような行為をする者達はキリスト十字架の敵対で行うのです。
次は、キリスト十字架の敵対で行う者達の生活特徴とその結末に対して調べてみましょう。
キリスト十字架の敵対で行う人は肉親の欲望を成就することができれば福音を歪曲して話すのが常のことになります。また、神様の国で恥になるのを考慮せず、この世で有益になるとしたら却ってそれを誇りに思って光栄に扱います。この世のことと楽しみを優先順位に扱います。キリストの再臨を慕う心がありません。天国で享受する賞と光栄に対して関心がありません。昼夜に地のことを考えます。この世で富貴映画を享受することに没頭します。救いに至る唯一な道であるキリスト十字架の贖いの恵みを拒否する者の最後結末は永遠な地獄に落ちる滅亡です。
全ての人をキリスト十字架の敵対で行う人とキリスト十字架を誇りに扱う人、このような二部類に分けることができます。皆さんは、キリスト十字架の敵対で行う者達を見る時パウロ使徒のように涙が出て焦がす心を持ってください。そして十字架に釘つけられてお墓で復活なさったイエスキリストに彼らを導くことに力を尽くしてください。

「チョヨンモク牧師先生の信仰コラム‘緑の牧場、清い川’本の語り中」

実像と本質

恵みと真理教会 **チョヨンモク** 牧師

実像とは実際の姿であり、あるままの状態です。本質とはあるものが持っている基本的な本来の性質や要素です。人や物の実像と本質についての知識は誰にも必要です。信仰生活ではもちろんです、日常生活にも必要です。今日は私たち自分の実像と本質がどうなのかを見てみましょう。人間の実像と性質について エペソ人への手紙 2 章に記録されました言葉を見てみましょう。

1 節では、**「さてあなたがたは， 先には 自分の 罪過と 罪とによって 死んでいた 者であって」**と記録されました。
「罪過と 罪」は、他の意味を持つものではなく強調するために同じような単語が使用されましたものです。人の霊的な実状は「罪過と 罪で死んでいた者」です。「死ぬ者」ではなく、「死んでいた者」です。罪過と 罪に死んでいたのは、霊が、神のいのちから遠く離れている状態を意味します。罪過と 罪で死んでいた者の知性からは、生の源と理由と目的を知ることができません。「人がどこから来て、なぜ生きてどこに行きますか？」という質問をしたら、「それを誰が知っているのか？」と言ってするほかちんぷんかんぷんと罪過と 罪で死んでいる霊的な状態になるのです
一方、この質問に対して**「**神様から生まれ、リスト・イエスにあって神の栄光をささげて主を喜ばせるために生き、肉体の幕が崩れると天使にささげ受けてイエス様が備えられた父の家に帰ります**。」**と答える人は罪過と 罪で死んでいた状態から本質と実像が変えられた人です。
罪過と 罪で 死んでいる者は霊的な喜怒哀楽を知りません。私たちの体は、私たちの心で感じるよりも深い感じがあります。それは私たちの霊魂で感じることです。霊的な喜び、霊的な怒り、霊的な悲しみもあります。しかし、霊的な状態が死んでいる状態にあるので、そのようなことを知りません。罪過と 罪で死んでいる者は神を喜ばれしようとする意志がありません

2 節と 3 節では、**「かつてはそれらの 中で， この 世のならわしに 従い， 空中の 權をもつ 君， すなわち， 不從順の 子らの 中に 今も はかている 靈に 從って， 歩いていたのである．また， わたしたちもみな， かつては 彼らの 中にいて， 肉の 欲に 從って 日を 過ごし， 肉とその 思いとの 欲するままを 行い， ほかの 人と 同じく， 生れながらの 怒りの 子であった．」**と記録されました。
罪過と 罪で死んでいる者の生活の特性と本質について申し上げました。
第一は、この世の風俗を従って生きていきます。無神論や偶像宗教に基づく風俗をこのように生きていきます。世俗の流行に従って生きていきます
第二には、空中の権威を持つ支配者の支配下に住んでいます。悪魔の影響力の下にあり、悪魔の操縦を受けます。権威と政事とは、世の闇の支配者たちすなわち悪魔であり、この世を主管しています。
第三には、肉体と心の望む欲に従って生きていきます。神霊な欲求がありません。
第四は、本質的に神の怒りの下にあります。これは審判を受けて、地獄の刑罰に処いるということです

4 節から、6 節までには**「しかるに， あわれみに 富む 神は， わたしたちを 愛して 下さったその 大きな 愛をもって，罪過によって 死んでいたわたしたちを， キリスト と 共に 生かし あなたがたの 救われたのは， 恵みによるのである キリスト・イエス にあって， 共によみがえらせ， 共に 天上で 座につかせて 下さったのである．」**と記録されました
実像と本質が罪過と罪で死んでいた者であり、神の怒りの下にある罪人に向かって福音が宣言されました。実像と本質が完全に変わる良い幸せの知らせです。神の子になって、栄光の相続人になるニュースです。どんなにしてこのような不思議な驚くべきことが起こるでありますか？
第一は、「あわれみが豊かれた神によったのです。神様が滅亡の道に行く人生をあわれんでくださったからです。
第二は、「その大きな愛」によったものです。一人子を与えた大いなる愛とひとり子イエス様が十字架につけられ死なれた「大きな愛」によるものです

5 節と 6 節では**「 罪過によって 死んでいた わたしたちを， キリスト と 共に 生かし あなたがたの 救われたのは，恵みによるのである キリスト イエス にあって， 共によみがえらせ，共に 天上で 座につかせて 下さったのである」**と記録されました。
「キリスト・イエスにあって一緒に」という言葉は、私たちがキリストと神秘的連合になった状態を示しています。イエスを信じる人とは、「キリスト・イエスにあって一緒に」という言葉で説明されている人です。私たちは、キリストにあって新しい命を獲得しました。キリストの中で復活して変化した身体をかぶるのでしょうキリストにあって天の御座に座っています。これらのことは、未完成のではなく、すでにキリストにあって完成されたものを形容されました。「生かして、よみがえられ、席に座して」この三つの動詞はすべて過去形です。可能性を言うのではなく確定したことを言うのです。神の永遠の中で見ると、すでに完成されました話を私たちに語っているのです。そして、「あなたがたは、恵みで救われた」という言葉が挿入されています。このすべてのことが恵みとなるのです。救いは完全に神の恵みで得るプレミアムです。

8 節と 9 節には**「あなたがたの 救われたのは，實に， 恵みにより， 信仰によるのである．それは あなたがた 自身から 出たものではなく， 神の 賜物である決して 行いによるのではない． それは， だれも 誇ることがないためなのである」**としました。
救いは、イエス・キリストの贖いの恵みによったものです。恵みは神の一方的な贈り物です。人間の行為とは、救いを受けるに当たってはなんでもないです。救われた者は、ただ謙遜することで、神に感謝と賛美と栄光を帰する生活をします。救われたことに比べれば、その何も些細なことです。どんなの苦難を受けても救われたという事実により耐え勝ち抜くことがあります。そうできずに落胆して、神を恨むのは、この大きな救いをなおざりに思うことです。まるでプレゼントをくれる人の前で、そのプレゼントを投げ捨てる行為と同じです

10 節には**「わたしたちは 神の 作品であって，良い 行いをするように， キリスト・イエスにあって 造られたのである． 神は， わたしたちが， 良い 行いをして 日を 過ごすようにと， あらかじめ 備えて 下さったのである．」**と記録されました。
イエス・キリストを信じる人は、キリスト・イエスにあって造られました。新しい被造物になりました。生まれ変わった人といいます。本質と実像が完全に変わりました。救いの恵みと真理は何よりも貴重なものなので、確かに知って信じるのです。イエス様が言う **「わたしにむかって『主よ， 主よ 』と 言う 者が， みな 天國にはいるのではなく， ただ， 天にいますわが 父の 御旨を 行う 者だけが， はいるのである． その 日には， 多くの 者が， わたしにむかって『主よ， 主よ， わたしたちはあなたの 名によって 預言したではありませんか． また， あなたの 名によって 惡靈を 追い 出し， あなたの 名によって 多くの力あるわざを 行ったではありませんか 』と言うであろう． そのとき， わたしは 彼らにはっきり， こう 言おう， 『あなたがたを 全く 知らない 不法を 行う者どもよ 行ってしまえ」（マタイ 7：21~23）**としました
聖書に明らかに啓示されていた通りに信じて正しい信仰なしに、「主よ、主よ」と呼ばれるだけでは決して救いを得ません。天の父の御旨の通りに行わねばなりません。ここで行うことは何の善を行うことを意味するのではありません。行為の功労を積まなければならないという意味ではありません。聖書に啓示された救いの恵みと真理のとおり信じなければならないということです。このようにしないと、彼はたとえ予言者の役割をしても、多くの力を行っても、主があなたをまったく知らないとします。バラムは予言をした預言者の役割もしました。しかし、最終的には捨てられました。力を行なっても救われたことではありません。神がその人を通して仕事をしだことだけです。
私たちが信じる救いの真理は聖書に明らかに啓示されたままであることを説明するとこうです。
第一、自分の実像と本質を知る必要があります。罪過と罪で死んでいて、神の怒りの下にいることを知らなければなりません。
第二に、イエス・キリストの贖いの恵み以外で救われる道がないのを信じて、イエス・キリストを自分の救い主として信じて受け入れる必要があります。
「イエス は 彼に 言われた， わたしは 道であり， 眞理であり， 命である． だれでもわたしによらないでは， 父のみもとに 行くことはできない」（ ヨハネによる福音書 14：6）、「 この 人による 以外に 救はない． わたしたちを 救いうる 名は， これを 別にしては， 天下のだれにも 与えられていないからである 」（使徒行傳 4:12）としました
第三に、イエス・キリストを信じれば義とされて、永遠の命を得て、新たに造られるので以前とは全く異なる実像と本質を持つようになることを認識する必要があります。これは救われるための条件ではありません。救われた人だから、自分の実像について、本質について理解を深めて認識するのがますます深くべきです。そうするときに彼の生活の中で驚くべきな結果が現れます

あなたは、イエスキリストにあって救われた自分の真の実像と本質への強い意識を持つことでどんな誘惑と試練と試験も十分克服する者になることを願います。そして善の事を熱心にする神様の民として生きるのを願っております。